



作ろう！乙訓発祥旭米 手植え&稲刈り体験！
—実施報告書—

2025.1.31
一穂プロジェクト実行委員会

申請事業の課題

- 1.子ども達が実生活で自然と接したり動植物を育む機会が減少している。
生きる為に欠かせない食についての関心が低い。お米がどうやって作られているのか、
どれだけ大変かを知らないから農作物や農家さんへの感謝の気持ちが薄れてきている。
また農家さんと接する機会がなく職業として農業を選択するきっかけがない。
- 2.かつて西日本で一番栽培されていた乙訓発祥のお米「旭米」。コシヒカリ、あきたこ
まち、ひとめぼれ、等誰もが一度は食べたことのある、聞いたことのあるお米のご先祖様
である「旭米」が現在ではほとんど栽培されておらず、その存在を知らない人が多くなっ
てきている。乙訓の食の歴史が忘れ去られてきている。

申請事業の目標

1. 農業体験を通して生命尊重や感謝の心を育む

子どもだけでなく大人も、農業体験を通してお米ができるまでの過程や苦労、大変さ、楽しさを実感することにより、生命尊重や感謝の心が育まれ、また自然保護や環境問題などにも意識が広まることを目標とします。

また様々な人との交流が生まれることや将来農業したいという人が出てくることも期待しています。

2. 乙訓発祥の伝統的なお米「旭」の普及を通して誇りに思える地域づくり

旭米をたくさんの人に知ってもらい、食べる人が増え、作る人が増えるようになってほしい。またそんな素晴らしいお米の歴史がある乙訓地域を誇らしく思ってもらいたい。何も無いと思われている地域を、異なる視点で見ること、今あるものの価値に気付いてほしい。

それらを楽しみながら学び体験できる場を増やしていきたい。

農業体験 → 自然体験 + 市民交流 + 地域活性化



■ 目的

- ・農業体験を通して生命尊重や感謝の心と生きる力を育む
- ・乙訓発祥の伝統的なお米「旭」の普及を通して誇りに思える地域づくり

■ ターゲット

- ・長岡京市民をメインに乙訓地域の人達

■ 内容

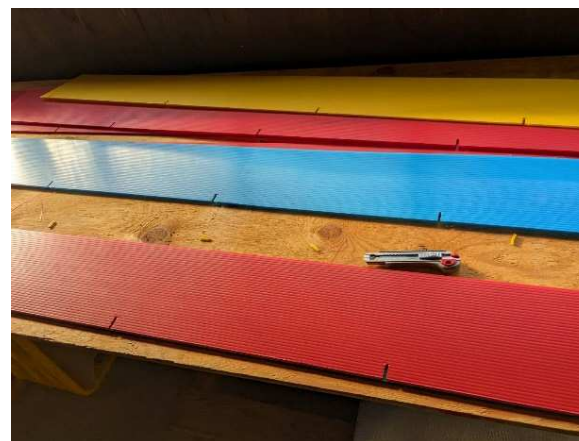
旭米の

- ・田植え体験イベント 6月16日(日)
- ・稲刈り体験イベント 10月 5日(土) 6日(日)
- ・新米食べよう会 12月21日(土)

石田ファームさんが1粒1粒植えて種籾から立派な苗を育ててくださいました



石田ファームさんの協力のもと
今回の秘密兵器 田植えローリングが完成



① 集合～挨拶

総勢
58名



② 大人も子供もはじめてのみんなで協力して移動・運搬・テント立て 普段できない体験のはじまりです



③ 開催地集合 まだそれぞれのグループでバラバラに行動



④ レクチャー 楽しむためには安全に行うことも大切



⑤ 田植スタート 一歩目はなかなか勇気がいります



⑥ 田植スタート 土の中は意外と気持ちいいとの感想も



《旭米 田植え体験》 6月16日(日) 実施風景

⑦ 田植え中 気づけば知らない人も田植え仲間！！ グループなんて関係なくみんなで夢中になってきます



《旭米 田植え体験》 6月16日(日) 実施風景

⑧ 田植え中 徐々に子供たちも自分達で考え、自分のできることを積極的に行うようになってきます



《旭米 田植え体験》 6月16日(日)

⑨ 田植え中 大人と学生ボランティアは子供たちのサポート役！ 今日初めて会った大人と子供が信頼できるパートナーになります



《旭米 田植え体験》 6月16日(日) 実施風景

⑩ お昼ごはんの準備 こちらでも学生ボランティアさんが大活躍！ 60名分のお昼(旭米のおにぎりと豚汁)の準備



《旭米 田植え体験》 6月16日(日) 実施風景

⑪ お昼休憩 旭米をみんなで食べました。普段野菜やお味噌汁をあまり食べない子たちもこの日はたくさんおかわりしました！





Instagram用画像



ボランティア募集サイト用画像



チラシデザイン

旭米
100年前乙訓で生まれ
一世を風靡した幻のお米

今の日本の
美味しいお米の
祖先と言われる
旭米作りを
体験してみよう！

IPPO
一穂プロジェクト
田植えイベント
参加者募集!!

日時：6月16日(日) 小雨決行
※荒天時は6月23日

場所：長岡京市井ノ内北裏3
※先着5台まで駐車場あり

料金：一人 1,000円
※一家族3人目以降は一人500円
※参加者には旭米のおにぎり2個と豚汁をご用意します。

100年前、京都乙訓向日町の一人の農家によって発見された旭米。
戦前戦後の西日本の米市場を席捲し、今はコシヒカリなどのご先祖様として
幻の米と言われる旭米の田植えイベントが長岡京市で開催されます！
手作業の田植えを行い、日本の伝統的な農作業と楽しい交流の時間を過ごしませんか？
お昼ご飯は田んぼの真ん中でかまどでお米を炊きます！

みんなでワイワイ言いながら泥に足を入れての作業を楽しめる方、
黙々と植えたい方、どんな方でも大歓迎です！
お友達と一緒に参加・グループでの参加もお待ちしております！！

お申込みは ipo.tanbo@gmail.com ※6月13日締め切り

詳細はコチラ→

一穂プロジェクトHP

- ・今日は大変貴重な体験をさせていただき誠にありがとうございました！初めての田植え、とても充実した気持ちでした。田んぼの中にいるだけで幸せですね。昨年熱中症になったので、気候的になかなか最後まで参加するのが難しかったのですが、また秋には収穫のイベントもある？とのことなので楽しみにしております。あさひ米もお味噌も大変おいしかったです！お味噌の販売店はお聞きできたのでまた購入しようと思います。
- ・企画運営本当に大変だと思いますが、なかなか農業体験の機会が身近になく、とてもありがたく感じました。また貴重な有機農家さんとのことでその点もすごくありがたいなと思いました。
- ・心地良い雰囲気でしたありがとうございました！子どもへの配慮もかなりありがたかったです。おにぎりが美味しかったです！
- ・子供たちと田植えができてとても楽しかったです！こういった経験ができる場は確実に減ってきていると感じています。子供たちも畑一面に苗を植え達成感を味わえたのではないのでしょうか。食に対する意識の向上も考えられるとても良いイベントだったと感じました。
- ・子供の頃にしたのを思い出してたのしかった。スケジュールをしっかりと考えたほうが段取り良いのでは。
- ・始めは嫌だったが田植えをしてみるととても楽しかった。泥に足をとられてこけてしまった。
- ・気持ちよく、楽しく田植えができました。無農薬なので、他の田んぼでは見られなくなった、いろんな種類の生き物がいて嬉しかったです。近所で、農に触れる体験ができるのはとても貴重ですね。近くを通るときに時々見に行きたいと思います。
- ・楽しかった。
- ・茨城県の田舎育ちなのに、人生で初めて田んぼに入りました。普段食べている米がどんな環境でできているか、子供と一緒に食育の機会がいただけて感謝しています。コシヒカリのひいおじいちゃんという表現、とてもわかりやすかったです！日頃から米は近所の米屋で買い、パンフレットやYouTubeで米作りも見せています。でも、百聞は一見にしかず、子供にとって米の育つ場所が田んぼだということは、今回身をもって知ったことでした。4歳5歳でもたくさんのお話を吸収してくれました。
- ・お米の住んでいるところはどろどろだった。
くさかった。（堆肥でしょうか？牛舎のようなにおい）
足が抜けなくて大変だった！
ぼくはお米の赤ちゃんと同じ水で足を洗った。（用水路の水）

一穂プロジェクト旭米田植えイベント、6月16日無事終了しました！

乙訓発祥の旭米を皆で植えて秋には収穫して味わいつくしてやろうというこの企画。

ご参加の皆様、駆けつけてくれたボランティアスタッフ、そしていつもお世話になる石田ファームさんありがとうございました！

去年の倍以上の人が来て下さり感謝感激てんやわんやの一日。

農薬を使わないこだわりのお米作りをしているのは石田ファームさん。田んぼを管理してくれるその石田ファームさんが設計工作した田植えローリング（と、僕らが勝手に呼んでる）マシーンを今回は投入。カラフルでいい感じ、子ども達が運ぶだけでかわいらしい！

今回のお昼ご飯は田んぼにかまどを持って来て、昨年みんなで収穫した天日干しの旭米を炊かせてもらいました。

いつも大好評の豚汁のお味噌は京都花糍さん謹製旭米糍味噌の「一穂」。

京都花糍さん曰く「一穂プロジェクトのイベントでしか食べられないお味噌」との事。スペシャルです。

やる気まんまん田植えに没頭する子どももいれば、泥に入るのが怖い子もいる。ご飯を炊く炎を見つめる子も。

ある子は笑い、ある子は泥と虫に泣き叫び、大人は翌日の腰を心配しながらの豊かなひととき。

バラバラのまま調和するような空間を、こころ全部で感じてくれたなら幸いです。

石田ファームさんが参加者の方に「植物は適切な距離を離して植えないと大きくなる」と話していたのが印象的です。

きっと人間もそう。

教室で学ぶ事も大切だけれど、もっと大きな空の下でそれぞれが互いを感じながらぼちぼちやってく…その感覚もきっと大切。

この乙訓という土地を感じ、人を感じながら生きる力を育んでいく。

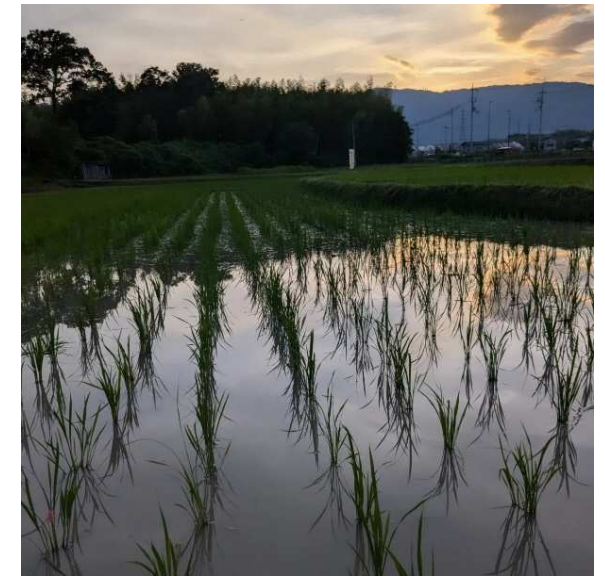
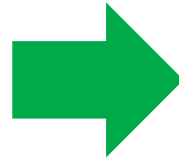
一穂プロジェクトの目指す一日がそこにありました。

皆様改めて本当にありがとうございました。

なお、ありがたい事にこの日の様子をJ:COMさんが朝からガッツリと取材しに来てくれました。

6月29日からJ:COMさんのジモトピで放送されました。

田んぼに草が生えてきたので、草取りを実施しました。
今年度は大々的に募集をせずに一穂プロジェクトに関わってくれてる親子と石田ファームさんの指導を受けつつ少数で作業。
普段は空気が合わず、学校に行っていない子も、この環境ではのびのびと話しながら一緒に草取りを頑張ってくれました。
見事に綺麗な田んぼになりました！



① ボランティアスタッフさん集合～挨拶



② 一般参加者さん集合～挨拶



③ 準備もみんなで頑張りました



《旭米 稲刈り体験》 1日目：10月5日(土) 実施風景

④ 稲刈り開始 しっかりレクチャーを受け、各パートに分かれて作業を分担



「旭米 稲刈り体験」 1日目：10月5日(土) 実施風景

⑤ お昼休憩 昨年取れた旭米のおにぎりとお米の麴みそで作った豚汁を食べながら交流



⑥ みんなで集合写真



⑦ ボランティアスタッフさんは最後の片づけまで



① 集合



② 挨拶～レクチャー



③ 準備もみんなで頑張りました



《旭米 稲刈り体験》 2日目：10月6日(日)

④ 稲刈り 安全第一で大人も子供も一生懸命刈りました



⑤ 稲束作り、稲木掛け 役割分担し刈った稲を束ねて掛ける作業も大変でした



《旭米 稲刈り体験》 2日目：10月6日(日)

⑥ お昼休憩 稲刈りチームが頑張っている間にお昼の準備！作業を頑張ったのでみんなモリモリ食べました



⑦ みんなで集合写真



⑧ ボランティアスタッフさんは最後の片づけまで



Instagram用画像



ボランティア募集サイト用画像



チラシデザイン

100年前乙訓で生まれ 旭米 プロジェクト

稲刈りイベント 参加者募集！

日時：10月5日（土）
10月6日（日）※雨天時は10月13、14日
場所：京都府長岡京市井ノ内北裏3 ※先着5台まで駐車場あり

参加費：一人 1,000円
※一家族3人目以降は一人500円
※旭米のおにぎり2個と豚汁をご用意します！

100年前、京都乙訓向日町の一人の農家によって発見された旭米。戦前戦後の西日本の米市場を席捲し、今はコシヒカリなどのご先祖様として幻の米と言われる旭米の田植えイベントが長岡京市で開催されます！手作業の稲刈りを行い、日本の伝統的な農作業と楽しい交流の時間を過ごしませんか？お昼ご飯は田んぼの真ん中でかまどでお米を炊きます！

みんなでワイワイ言いながら作業を楽しめる方、黙々と刈りたい方、どんな方でも大歓迎です！
お友達と一緒に参加・グループでの参加もお待ちしております！！

詳細はコチラ→
お申込みは ipo.tanbo@gmail.com ※10月2日締め切り 主催：一穂プロジェクト実行委員会



- ・稲を刈るのは思ったより難しくなかったが、広大な敷地の稲を刈ることや待っていく作業を長時間やることは、想定していたよりハードだった。お米をはじめ、普段自分が口にする野菜や肉魚により感謝しようと思った。
- ・まぼろしの旭米。沢山の方に知って頂けたら良いなと 感じました。
- ・想像以上に過酷で、今日は楽しかったのでまじだったのかも しれませんが、これが真夏だったとき、相当身体にくるものがあるなと感じました。
- ・初めて田んぼ作業したので良い経験になりました。みなさんと楽しく過ごせて良かったです。
- ・お米が好きなので収穫に参加できたことがとてもうれしかったです。
- ・とても楽しかったです。お米を大切に食べようと思いました。 おにぎりや豚汁がバツグンでした。竹の子の酢のものもすごくおいしかったです。
- ・楽しかったです。稲刈りも楽しかったが バッタやいなごなど虫とも遊べてよかった。
- ・無心で刈りました(田植え同様) 楽しかったです。 子どもたちも、途中から参加にくれて良かった! 周りの空気が良かったんだと思います^^
- ・楽しかったです。子どもたちにも良い経験をさせていただきました。ありがとうございました。
- ・イベントの感想 (大人) 稲刈りという食と自然に触れる体験を子どもにさせたくて参加しました。 単なる稲刈り体験ではなく、あさひ米という貴重な品種を知れて良かったです。
- ・稲を運ぶのがピグミンのゲームみたいで面白かった。
- ・稲の一束が、掴みきれない大きさに成長して、自然の力は凄いなと感動しました。 薪ストーブで炊かれた羽釜ご飯や、特産のタケノコの酢の物も絶品。美味しかったです。
- ・田植えに続き、普通では体験出来ない貴重な体験をさせて頂き感謝しております。 稲刈り体験を通して、お米が食卓に上るまでの勉強になったり、お米や食べ物に感謝する心等を学べたと思います。 翌日から数日間筋肉痛が大変でしたが、夫も私も初めての体験でとても楽しかったです。 12月の試食会も日が合えば参加させてもらいたいです。今回は息子が大好きな女の子を4人誘っての参加でしたが、来年の田植えは同学年のお友達をクラスごと誘って参加したいなと思っています。本当にありがとうございました!!
- ・近所に田んぼがないこともあり、お米がどうやってできているのかを子どもに説明しながら一緒に作業をする時間がとても貴重で、いい経験となりました。炊き出しのおむすびや豚汁もとても美味しかったです! ありがとうございました。 10月とはいえ暑い中だったので、人数に合わせてもう少し休憩スペースを設けていただけたら良かったと思いました。
- ・初めの説明で、マムシやヘビがいると知り怖がってはいましたが(笑) 稲に触れ、自然の中で思い切り遊ぶことができて楽しかったようです。

10月5、6日に一穂プロジェクトの稲刈り開催致しました！

恥ずかしながら一穂プロジェクトによる草取りのタイミングが遅く、稲に混ざってヒエも生えてきてしまった、とても刈り取りづらい田んぼでした。

2日間で計75人の人間が集まり皆で作業開始。

辛い作業も皆でやれば気持ちは楽になる…けどやっぱり大変なものは大変。

昨年よりも量を多く感じる！

この大変さは、一穂プロジェクト田んぼ企画担当者である僕の段取りの悪さ、見通しの甘さによるもの。

この点、大いに反省すると共に、お付き合いして下さった皆様には感謝の念に堪えません。

本当にありがとうございます。

初めて持つ鎌、そして稲を切る感触に小さな子も楽しんでくれたようです。

刈り終わったところを子ども達が長靴で走り回っている様は、まるで土門拳の写真の世界のようでした。

お昼ご飯は、昨年ここで刈り取った旭米のおにぎりと、旭米の米麴を使ったお味噌の豚汁、そしてこの田んぼを使わせて下さった石田ファームさんからご提供頂いたタケノコの自家製メンマを使った酢の物。

どれも絶品！と参加したから嬉しいお声を頂きました！

2日間で全て刈り切る事は敵わず、残りは翌日に石田ファームさんと全て刈り終わりました。

運営としての課題の浮き彫りになった今回ですが、同時にこの空間を求めて来てくれる方々の想いも強く受け取りました。

一穂プロジェクトの名の通り、次はもっとよくなるよう一步一步進めていきます。

いや、十歩くらいいきたいな。いかなきゃなあです。

改めて皆様ありがとうございました！

今後ともよろしくお願いします！

① 準備 食べるまでが一穂プロジェクトの農業体験！自分達で植えた、刈った旭米を自分達でにぎって食べました



《旭米 新米食べよう会》 12月21日(土) 実施風景

② 実食 美味しいと大絶賛！たくさんおかわりもしてくれました



《旭米 新米食べよう会》 12月21日(土) 実施風景

③ 食についてのお話&旭米の歴史紙芝居 大人も子供も真剣に、楽しみながら学んでいただきました



《旭米 新米食べよう会》 12月21日(土) 実施風景

④ 片づけ みんなで皿洗いや掃除をして6月にスタートした今年の農業体験は終了です



チラシデザイン



会場案内POP









★昔話と絡めた小さい子も見やすい簡易バージョン





- ・今年食べたどのお米よりも美味しかった。
子どもがいつもよりたくさん食べて、お手伝いも頑張っていました！
- ・ご飯も美味しく汁物、野菜も美味しく頂きました。 時間が合えば次回開催も参加したいと思います
- ・有意義で貴重な経験ができました。炊き立てのご飯は、ピカピカでモチモチ。
土鍋と炊飯器のご飯の味の違いも全く異なり、非常にためになりました。
具沢山の豚汁やお惣菜も、素材の味が生かされていて、お味噌も旨味が深くて美味しかったです。
全てが身体に優しい食品で、次の日には胃の調子がスッキリしていました。
- ・大切に育てられたお米が美味しく、紙芝居新しい事を知れてとても楽しかったです。ありがとうございました！
- ・食について色々教えていただき勉強になりました。 日々の食事についても見直そうと思いました。
- ・子どもがこんなにももりもり食べ、お代りする姿はここでしか見られません。 野菜もいつもこんなに食べてくれたらと思いました。
- ・おにぎりをにぎったり、お皿を洗ったり、楽しそうにお手伝いや作業をする我が子の姿が見れて嬉しかったです。
- ・炊飯器と土鍋で炊いたお米の食べ比べもよかったです。 子供が土鍋で炊いたお米をお米だけでもめちゃくちゃ美味しいと大絶賛していました。
- ・モチモチしてこんなおいしいお米はじめて～。
- ・来年も田植えから参加したいので続けてください！ 1



クリスマスの迫る2024年12月21日、旭米の「新米食べよう会」を開催いたしました。

会場はJR長岡京駅前バンビオ、長岡京市生涯学習センター6階食工房。

そこに田植え稲刈りをしてくれた大人に子ども20名が集まりました。

会場には使い切れないほどの調理器具。そして一人一人にたっぷりの調理スペース。

旭米を食べてもらうには舌で味わうのはもちろんのこと、その手で掴んで触覚でも、もっと言えば田植えから稲刈り、そしてこの日自分でおにぎりも握って、そのストーリーまるごと心と体と頭全部で味わって欲しい。 そう考えてのこの日この会場です。

メニューは毎度お馴染みの旭米のお味噌を使った豚汁とおにぎり。

お米は炊飯器でも炊きますが土鍋でも炊いてその違いを楽しんで頂きます。

おにぎり作りから後片付けまで、普段家ではなかなかお手伝いしない子もここではそれぞれがしっかり動いてくれる。

それはきっと場の力であり、子ども達同士の力であり、自ら植えて刈り取ったお米だというその思い入れの力なのでしょう。

この日の料理番である井上さんから、お米の事からお味噌の麹菌を殺さずに美味しく頂く方法まで、丁寧にレクチャーしてもらい、みんなの前にご飯が行き渡ったところで、みんな一緒に手を合わせ 「いただきます！」

子どもたちがその小さな手で握ったおにぎり。

ちょっとばかり形がいびつでも、ちょっとどこでなく崩れていても、自分が刈り取り握ったお米、嬉しく美味しく食べられるものです。

何より一人で食べるよりみんなで笑い合いながら食べると本当に美味しい。

子ども達の笑顔はもちろん、大人からも「今年食べたお米で一番おいしい！」とのお声を頂きました。

ご飯の後は、一穂プロジェクト制作の旭米を伝える紙芝居を見てもらい、旭米の歴史を改めて知ってもらい、2024年の締めくくりとしました。

僕たち一穂プロジェクトは「旭米を知って欲しい」からスタートしました。そして旭米を通じて人と人とがつながり、心育める場を作れたらと願っています。

田植え稲刈り、そして新米食べよう会を開催する中で、その形が見えてきたと強く思います。

2024年一年間ありがとうございました！ また来年度も引き続き旭米を通して笑顔にたくさん出会えたらと思います。

来年に向け石田ファームさんと打ち合わせ & 現地(田んぼ)を確認し、今期の活動を完了しました。

